

裁ち盤（台）と嫁荷出し

資料提供・文 国枝 浩



今は和装の作業衣など見ることはあります。昔は野良着は家で縫い、反物を裁つのに使つたのが裁ち盤で、どの農家にもありました。そんな訳で、あま台とセットの嫁入り道具の一つとなりました。

当方は割合早くから簡素化が

進んでいましたが、それでも嫁ぎ先が尾張方面だと、茶道具、火鉢、近江方面へは花器、重箱は必須品でした。

私は婚礼家具店に勤めていたので、嫁ぎ先に依つて落ち度のない様、気を付けたものです。

大体トラック一、二杯ですが、尾張

仕立てを請けていたので、在来のではなく、大きめの朴ノ木で作らせて使つていましたが、今ではお払い箱にも出来ず、アイロン台にしています。

裁ち盤は、
家内が呉服の
へは派手に見
せ、又、江州
では家から離
れた所にト
ラックを停め
て置き、男衆
が祝い唄を
唄つて吊つて
運ぶのが決ま
りでしたね。

協力 郷土史の会